

# 保育者像についての研究(2)

—学生から見た望ましい保育者—

A Study on a Model of the Pre-School Teacher (2)  
The Image of an Ideal Pre-School Teacher in the  
Eyes of the Students

浅野 房雄  
F u s a o A S A N O

## 1. 目的

保育者養成は、保育者（幼稚園教諭および保育士を含めてここでは保育者という）を目指す学生がよりよい保育者に成長できるよう、保育の基礎を学修させ、それとともに保育者としての資質の根幹を育てるところにある。そのために本学（つくば国際短期大学）は、カリキュラムを編成し、学生の教育と指導に当たっている。それら授業の開設科目の一つとして、筆者の担当する「幼児教育教師論」は、保育者の役割を認識させ、保育者としてのあるべき姿について学習を進め、保育者を目指す学生としての自分は今、どうあるべきかを考えさせることを目的の1つとしている。

この授業の中で、望ましい保育者とはどんな保育者であるかを一人一人が考える機会とするために、幼稚園実習で出会った実習先の先生方（教諭）の中から自分はある先生のようになれたらよいなあ、と思えるモデル的な先生一人を選び、その先生について考える課題を与えた。さらに前後して、「幼稚園実習で学んだこと、教えられたこと」および「私はこんな保育者になることを目指したい」との課題も出し、実習の体験を通して保育者のあり方を考えさせることとした。

本報告は、この授業時の学生のレポートを通して、学生が考える望ましい保育者とはどんな先生か、学生は望ましい保育者のどんなところに引き付けられたのか、また、その先生の人柄（人となり）はどんなふうかについてまとめ、今後の授業に生かすことを目的とする。

## 2. 方法、時期、対象

保育科2年次学生が平成14年10月15日から2週間、幼稚園での教育実習をした。実習終了後の「幼児教育教師論」の授業の最初の時間（平成14年11月11日）に、下記の資料に示す課題を与えた。

レポート提出者の内訳は次のとおりである。

・公立幼稚園での実習者	55人
・私立幼稚園での実習者	75人
計	130人

なお、レポートに判別し難い箇所があり集計から除いた4人および健康上の理由により実習に参加できなかった一人を除き、レポート提出率は94.9%である。

Ⅱ. 「幼児教育教師論」レポート

(2002. 11. 11)

学生番号

氏 名

実習園 (公立, 私立)

《今回の幼稚園実習で出会った実習園の先生方の中で、あなたがあんな幼稚園の先生になれたらよいなあ、と思えるモデル的な先生一人を選び、その先生について考えてみましょう》

1. その先生のどういうところに引き付けられましたか。次の中から3つを選び, 引き付けられた順に ( ) の中に 1, 2, 3 と記入してください。

- |                   |     |               |     |
|-------------------|-----|---------------|-----|
| ・ピアノが上手である        | ( ) | ・いつも笑顔である     | ( ) |
| ・子どもとの接し方がていねいである | ( ) | ・服装のセンスがよい    | ( ) |
| ・保育に関する知識が豊富である   | ( ) | ・製作が上手である     | ( ) |
| ・元気がよい            | ( ) | ・子どもをきちんと叱る   | ( ) |
| ・歌を歌うのが上手である      | ( ) | ・声大きい         | ( ) |
| ・クラスの統率が上手である     | ( ) | ・健康である        | ( ) |
| ・一生けんめい保育に取り組んでいる | ( ) | ・話し方がはっきりしている | ( ) |
| ・同僚の先生方と仲よくしている   | ( ) | ・保育を工夫している    | ( ) |
| ・親との接し方が上手である     | ( ) | ・あいさつをよくする    | ( ) |
| ・その他              | ( ) |               |     |

2. その先生は、あなたから見てどんな先生でしたか。その先生のイメージを記入例に従って該当するところに○印をつけてください。

〔記入例： 不親切な        親切な〕

と か や ど ち ら や か と  
 て な ち ら だ ん だ ん な て  
 も り や ない や り も

- |              |   |         |
|--------------|---|---------|
| (1) 信頼のある    | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 信頼のない   |
| (2) 不熱心な     | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 熱心な     |
| (3) 暖かい      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 冷たい     |
| (4) 清潔な      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 不潔な     |
| (5) 厳しい      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 厳しくない   |
| (6) 派手な      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 地味な     |
| (7) 不親切な     | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 親切な     |
| (8) 暗い       | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 明るい     |
| (9) ていねいな    | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 乱暴な     |
| (10) 落ちつきのない | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 落ちつきのある |
| (11) やさしい    | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | こわい     |
| (12) 支配的な    | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 服従的な    |
| (13) だらしない   | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | きちんとした  |
| (14) 自由な     | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 不自由な    |
| (15) 思いやりのない | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> | 思いやりのある |

### 3. 結果と考察

#### (1) 望ましい幼稚園の先生の引き付けられた事由

実習をした幼稚園の先生方の中から、あんな先生になれたらよいなあ、と思えるモデル的な先生一人を選び、その先生のどういうところに引き付けられたか、その事由を引き付けられた順に3項目を選んでもらった。その結果が表1である。そして、その結果を引き付けられた選択順位別に、それぞれ選択率上位5項目について図示したものが図1である。

表1 引き付けられた事由

事由	第1順位	第2順位	第3順位	計
ピアノが上手である	4人 (3.1%)	6人 (4.6%)	4人 (3.1%)	14人 (3.6%)
子どもとの接し方がいいである	24 (18.5)	20 (15.4)	20 (15.4)	64 (16.4)
保育に関する知識が豊富である	9 (6.9)	11 (8.5)	8 (6.2)	28 (7.2)
元気がよい	10 (7.7)	16 (12.3)	6 (4.6)	32 (8.2)
歌を歌うのが上手である	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
クラスの統率が上手である	8 (6.2)	13 (10.0)	9 (6.9)	30 (7.7)
一生けんめい保育に取り組んでいる	7 (5.4)	8 (6.2)	5 (3.8)	20 (5.1)
同僚の先生方と仲よくしている	0 (0)	3 (2.3)	12 (9.2)	15 (3.8)
親との接し方が上手である	4 (3.1)	3 (2.3)	6 (4.6)	13 (3.3)
いつも笑顔である	39 (30.0)	15 (11.5)	14 (10.8)	68 (17.4)
服装のセンスがよい	1 (0.8)	0 (0)	0 (0)	1 (0.3)
製作が上手である	0 (0)	3 (2.3)	4 (3.1)	7 (1.8)
子どもをきちんと叱る	2 (1.5)	16 (12.3)	12 (9.2)	30 (7.7)
声大きい	2 (1.5)	1 (0.8)	2 (1.5)	5 (1.3)
健康である	1 (0.8)	0 (0)	2 (1.5)	3 (0.8)
話し方がはっきりしている	6 (4.6)	3 (2.3)	6 (4.6)	15 (3.8)
保育を工夫している	8 (6.2)	12 (9.2)	13 (10.0)	33 (8.5)
あいさつをきちんとする	4 (3.1)	0 (0)	7 (5.4)	11 (2.8)
その他	1 (0.8)	0 (0)	0 (0)	1 (0.3)
計	130 (100.0)	130 (100.0)	130 (100.0)	390 (100.0)

(注) その他:「女らしさ」

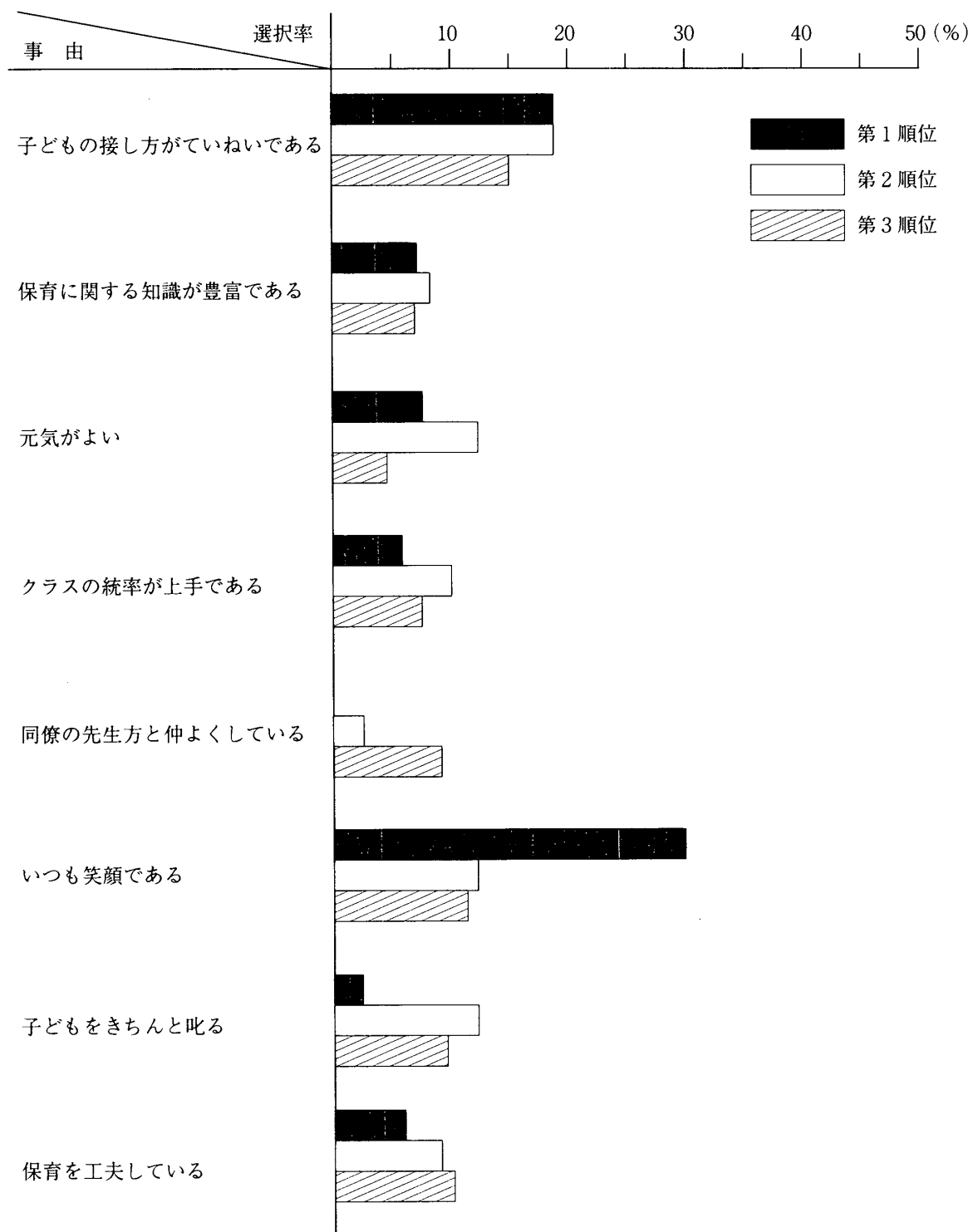


図1 選択順位別引き付けられた事由（上位5事由）

引き付けられた第1順位として選ばれた事由としては、「いつも笑顔である」が選択率が一番高く、30.0%（39人）の者がこの事由を挙げている。引き付けられた第2順位、第3順位までを含め選択全体を見ても、「いつも笑顔である」は68人（17.4%）によって選択されており、全体の選択の中でも一番多く選ばれている。つまり、学生は幼稚園の先生の中で望ましい先生と思える先生は、いつも笑顔であった、とふり返っている。

「いつも笑顔である」に次いで多く挙げられている事由は、「子どもとの接し方がていねいである」であり、24人（18.5%）の者に選ばれている。第2順位、第3順位の選択において、この事由はともに1番多く選ばれており、全体の選択としても64人（16.4%）によって選ばれている。学生は望ましい幼稚園の先生の要件として、「子どもとの接し方がていねいである」ことが、「いつも笑顔である」ことと同じくらい大事なことであると捉えている。

第1順位として3番目に多く選ばれている事由は、「元気がよい」である。これは選択の全体でも4番目に多く挙げられており、学生は元気さも保育者には大切な資質である、と考えているようである。

第1順位として4番目、5番目に挙げられている事由は、「保育に関する知識が豊富である」「保育を工夫している」「クラスの統率が上手である」である。つまり学生は、笑顔で元気がよく、子どもとの接し方がていねいであるなど人間としての保育者の要件とともに、保育に関する知識を持ち、保育を工夫しており、クラスの統率など子どもの指導が上手なことも望ましい先生の要件として挙げている。

引き付けられた第2順位として選ばれた事由を見ると、最も多く選ばれているのが「子どもとの接し方がていねいである」である。つまりこのことは、前述したとおり、学生が「いつも笑顔である」に次いで望ましい幼稚園の先生の大事な要件として、子どもとの接し方のていねいさを考えていることを示す資料である。この事由に次いで、挙げられている事由は「子どもをきちんと叱る」である。この事由は第3順位の選択としても4番目に、選択の全体でも5番目に多く選ばれている。つまり学生は、保育の中で子どもをきちんと叱ることのできる先生を望ましい先生である、と見ている。

引き付けられた第3順位の選択においては、「子どもとの接し方がていねいである」「いつも笑顔である」「子どもをきちんと叱る」に次いで、「同僚の先生方と仲よくしている」が選ばれている。学生は同僚の先生方と協力し合い、仲よくしながら保育に当たっている先生を望ましいと考えている。

「ピアノが上手である」「歌を歌うのが上手である」「製作が上手である」など、いわゆる保育技能に関する事由は、選択全体でそれぞれ3.6%、0%、1.8%であり、選択率は低い。これら保育技能に関する事由が選ばれる率が低いのは、今回の選択が3つの事由だけを挙げてもらうという質問上の制約によるためと考えられ、望ましい幼稚園の先生の要件として、保育技能の習熟さは

大事なことではないと考えるべきではない。

その他の事由として、「女性らしさ」を引き付けられた第1順位の選択で挙げた学生は1名いた。「女性らしさ」は幅広い概念を含む事由であるが、望ましい幼稚園の先生の要件として、「女性らしさ」という資質が挙げられていることを記しておく。

ところで今回は、公立幼稚園、私立幼稚園別の分析については意図しなかったので、有意差検定などの統計的処理はしていないが、公立幼稚園で実習した学生と私立幼稚園で実習した学生の評定の比率だけを比較してみると、次の傾向が見い出せるので付記する。

- ① 公立幼稚園における望ましい先生の要件として、より多く挙げられている事由
  - 「クラスの統率が上手である」(公立9.1%, 私立6.7%)
  - 「同僚の先生方と仲よくしている」(公立6.1%, 私立2.2%)
- ② 私立幼稚園における望ましい先生の要件として、より多く挙げられている事由
  - 「ピアノが上手である」(公立1.2%, 私立5.3%)
  - 「いつも笑顔である」(公立15.2%, 私立19.1%)
- ③ 公立と私立の間に差が少ない事由
  - 「子どもとの接し方がていねいである」(公立16.9%, 私立16.0%)
  - 「元気がよい」(公立7.9%, 私立8.4%)

## (2) 望ましい幼稚園の先生の人柄

実習をした幼稚園の先生方の中から、あんな先生になれたらよいなあ、と思えるモデル的な先生1人を選び、その先生の人柄(人となり)について、15対の項目からなるSD法(semantic differential)を使い、7段階の評定をしてもらった。それぞれの項目の尺度の左端を1点とし、順に1点ずつの重みづけをし、数量化した結果が表2であり、その得点をプロフィールとして表わしたものが図2である。

多くの項目において、「とても」「かなり」の評定がなされ、それぞれの人柄の傾向が強調されて捉えられている。

つまり、(1)信頼のある (2)熱心な (3)暖かい (7)親切な (8)明るい (11)やさしい (13)きちんとした (15)思いやりのある などが望ましい幼稚園の先生の人柄として挙げられている。学生は明るく、思いやりがあり暖かく、親切でやさしい人柄とともに、きちんとしていて熱心さを持ち、信頼のおけるなどの諸特性を望ましい幼稚園の先生の人柄の中に見ている。

一方、(5)厳しい—厳しくない (6)派手な—地味な (12)支配的な—服従的な の項目の評定は中庸である。つまり、厳しさや派手さや支配性に関しては、望ましい先生方は片寄ったところはないと見ている。

なお、望ましい幼稚園の先生の人柄についても公立幼稚園、私立幼稚園別の分析は意図しなか



表2 望ましい幼稚園の先生の人柄の評定点

	公立(N55)	私立(N75)	全体(N130)
(1) 信頼のある—信頼のない	1.82	1.73	1.77
(2) 不熱心な—熱心な	6.20	5.96	6.06
(3) 暖かい—冷たい	1.82	1.75	1.78
(4) 清潔な—不潔な	2.16	1.91	2.02
(5) 厳しい—厳しくない	3.85	3.83	3.84
(6) 派手な—地味な	4.13	4.03	4.07
(7) 不親切な—親切な	6.45	6.51	6.48
(8) 暗い—明るい	6.29	6.63	6.48
(9) ていねいな—乱暴な	2.16	2.09	2.12
(10) 落ちつきのない—落ちつきのある	5.85	6.03	5.95
(11) やさしい—こわい	1.78	2.05	1.94
(12) 支配的な—服従的な	3.95	3.87	3.90
(13) だらしない—きちんとした	6.38	6.32	6.35
(14) 自由な—不自由な	2.00	2.60	2.35
(15) 思いやりのない—思いやりのある	6.53	6.69	6.62

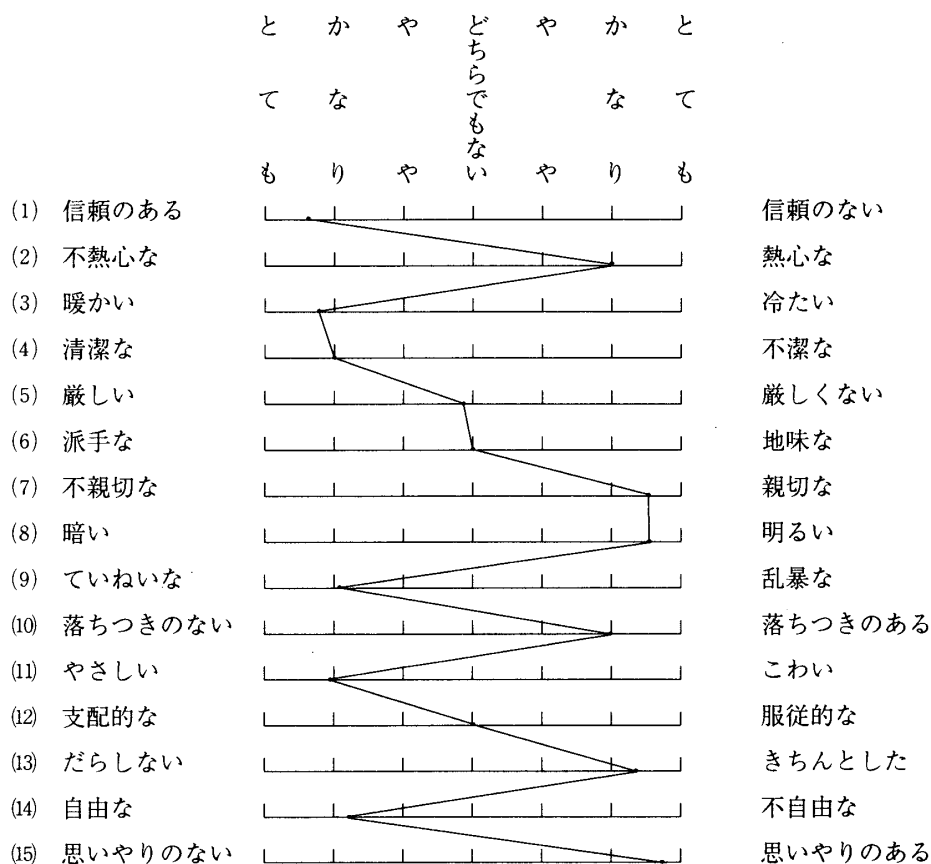


図2 望ましい幼稚園の先生の人柄

ったが、評定の比率の比較から次の傾向が見られるので付記する。

(1) 公立幼稚園における望ましい先生の人柄として、よりその傾向が強く見られる特性

(11) やさしい—こわい (公立1.78, 私立2.05)

(14) 自由な—不自由な (公立2.00, 私立2.60)

つまり、やさしさ、自由さについては、公立幼稚園の先生の方によりその傾向が強いと評価されている。

(2) 私立幼稚園における望ましい先生の人柄として、よりその傾向が強く見られる特性

(4) 清潔な—不潔な (公立2.16, 私立1.91)

(8) 暗い—明るい (公立6.29, 私立6.63)

つまり、清潔さ、明るさについては、私立幼稚園の先生の方によりその傾向が強いと評定されている。

(3) 公立、私立の間に差が少ない特性

(1) 信頼のある—信頼のない (公立1.82, 私立1.73)

(3) 暖かい—冷たい (公立1.82, 私立1.75)

(5) 厳しい—厳しくない (公立3.85, 私立3.83)

(7) 不親切な—親切な (公立6.45, 私立6.51)

(9) ていねいな—乱暴な (公立2.16, 私立2.10)

(12) 支配的な—服従的な (公立3.95, 私立3.87)

(13) だらしない—きちんとした (公立6.38, 私立6.32)

つまり、これらの項目 (人柄) については、公立と私立の幼稚園の先生間の評定に差が目立たない。

#### 4. まとめ

(1) 実習先 (幼稚園) の先生方の中で、学生があんな先生になれたらよいなあ、と思える先生のどういうところに引き付けられて望ましい先生と思えたかをまとめてみると、“いつも笑顔で” “子どもの接し方がていねいで” “元気があり” “同僚の先生方とも協力し合っていて” など保育者としてのみならず、人間として大事と思われる資質を持った保育者像が描出されている。さらに学生は、その上に、“保育に関する知識を豊富に持ち” “保育を工夫しながら” “クラスをまとめ” “場面によっては子どもをきちんと叱って、善悪を教え” など保育の専門家としての資質にも目を向け、望ましい保育者像を描いている。これは、学生が望ましい保育者の要件として、人間としての望ましい資質と保育専門家としての望ましい資質の両面性、その望ましさを見出し出しているためである、と考えることができる。つまり、学生は保育者のあり方について基本的視点を学び、保育者はどうあるべきかを現実にも自分自身のこととして考えることができる

ようになっていると思料され、学生の学びの成果を認めることができる。

(2) 同じく実習先(幼稚園)の先生方の中で、学生があんな先生になれたらよいなあ、と思える先生の人柄について評定したのを見ると、次のような人柄が見い出されている。“思いやりがあり”“暖かく”“親切で”“やさしい”などの人柄の特性である。保育の目標は子ども一人一人が楽しく、安心して生活する中で、子ども一人一人の心身の健全な発達を願って行くところにある。子どもたちに楽しさと安心感を与えるためには、保育者がやさしさや思いやりの心で子どもにかかわり、保育に取り組むことが求められており、そのために保育者に必要とされる資質としての人柄は、思いやりなどの特性である。また、“熱心で”“きちんとした”人柄を望ましい保育者の人柄として、見い出している。これら“熱心さ”などの人柄は、幼児期の養護と教育を行う大事な営みである保育の責任を果す上で、大事な人柄である。さらに子どもの主体性を大事にする保育においては、厳格性や支配性は片寄ることなく中庸であることが望まれる。このように学生が望ましい保育者の人柄を適確に描出しているのは、学生自身が保育者の資質についての基本的視点を理解することができるようになってきているため、と考えることができる。ここにも、学生の学びの成果を認めることができる。

(3) 学生が今回の幼稚園実習で出会った先生方を通して、保育者のあり方や保育者像について考える授業を展開した。保育を学ぶ学生にとって、保育者のあり方を理解し、自分はどんな保育者を目指すかを考え、思い描くことは大事な課題であり教養でもある。今回の実習に限っても学生は、実習先の先生方との出会いを通して、感じ、考えることがいっぱいあったようである。そして、たくさんのことを教えられ、学んだようである。授業の展開の中で、「私はこんな保育者になることを目指したい」というテーマのレポートを課した。学生一人一人のこのレポートを読み、実習体験が学生の成長にいかに大きな力となるかを、再確認している。学生たちが2年間の本学の学びでこんなに成長できたことを学生自身にも追体験してもらいたく、以下に数名の学生のレポートを転記する。

[注]

- ① 教育的配慮から匿名とした。
- ② 文章の下線は、授業中、自分の書いたレポートをふり返る作業の際、学生自身に特に心に留めておきたい箇所にマークをするよう指示した部分である。
- ③ 個人名が書かれている部分は仮名とした。

〈レポート1〉

【私はこんな保育者になることを目指したい】

R. O.

あと数ヶ月で、保育士・幼稚園教諭の免許をもらえるわけですが、私にはまだ実感がわかりません。二年間勉強してきたけど、まだまだわからないことはたくさんあって、このまま保育士・幼稚園教諭として社会に出てやっていけるかと考えたら、とても不安です。しかし、そういう時に、私は実習中に出会ったある先生を思い出します。その先生は、若くていつも笑顔で子どもの事を思いやっている先生でした。失敗をしてもめげずに、やる気のない姿を一度も見ませんでした。私はその先生に出会ってから、保育士・幼稚園教諭の目標、そして人間としての目標をもてたような気がしました。私もこの先生のような保育士・幼稚園教諭を目指してこれからがんばっていきたいと思います。そしてこの仕事にやりがいをもちいろいろな面で成長していきたいと思います。

※ 私は保育者としてこのことを最も大事にしたい。

私は保育者として『思いやり』を最も大事にしたいです。『思いやり』をもって子どもや周りの人達と接していき、子どもも『思いやり』をもった子に育っていつていけるような保育がしたいと思います。

◎ 私は保育者としてこのことだけはしたくありません。

私は保育者として『子どもが嫌な思いをすること』だけはしたくありません。子どもには、いつでも元気にのびのびと生活してほしいと思います。

〈レポート2〉

【私はこんな保育者になることを目指したい】

S. I.

私は、保育科で勉強してきて、自分の考え方が変わりました。〇〇先生の授業で色々な話を聴いて、誰にでも優しい心で、平等に接することが出来るようになりました。そして、今は「こんな保育者になろう」という目標がはっきりとあります。それは次のようなことです。「子ども達の前で笑顔でいられる保育者であること」「健康であり、子ども達と一緒に何事も楽しく活動できる保育者であること」「一人ひとりの個性を大切に一人ひとりに対し思いやりの心を持つ保育者であること」「子ども達にとって、うれしい楽しい保育者であること」。以上のようなことが、私の目指す保育者です。

今まで保育科で学んだ事と、この気持ちを忘れずに、よい保育者になれるようがんばります。

※ 私は保育者としてこのことを最も大事にしたい。

『子ども達の前で笑顔でいられる保育者であること』を最も大事にしたいです。

◆ 私は保育者としてこのことだけはしたくない。

体罰やひいき等、子どもの体にも心にも傷つけるようなことだけは絶対にしたくありません。

〈レポート3〉

『私はこんな保育者になることを目指したい』

M. I.

私は、先日終わった幼稚園実習で、「すごい」と思える先生と出会った。子ども達を一人の人間として扱い、大人を諭すような叱り方をし、(頭ごなしにカーッと怒ったりしない) 子ども達はもちろん親からの信頼も厚いように思われた。「子ども」というものをよく知っていて、どんなことにも動じないような安心感がただよっていた。今までいろいろな所で実習をしてきたが、「尊敬」したいと思う先生はこの先生が初めてだった。そして、「いつかこの先生のようにになりたい」というか「いい点を盗みたい」と思うようになった。春から新しい環境の中で、子ども達との生活が始まるが常にこの先生の姿を頭に思い浮かべながら活動したいと思う。そして、子どもをよく観察して、子どもの心の動きをよくとらえて、どのような言葉をかけたり、援助をすれば最適なのかを学んでいきたいと思う。そして、良い点は盗みつつも、自分なりの工夫・考え方も加えていきたいと思う。

※ 私は保育者としてこのことを最も大事にしたい。

- 子どもを一人の人間として見ること

体は小さいが、心・感情まで幼いわけではない。大人に比べて劣っているとかいう風に考えない。

※ 私は保育者としてこのことは絶対したくない。

- 子どもの表現を制限すること(“表現”の分野で)

「絵はこういう風に描きなさい」と指示し、その通りできない子を「下手な子」と決めつけるなど。

〈レポート4〉

『私はこんな保育者になることを目指したい』

A. F.

保育所・幼稚園実習をすべて終えてみて、最初の頃は、子ども達にすかれる先生になりたいと思っていましたが、実習を重ねていくうちに、ただすかれるだけでは素晴らしい保育者になることができないと思いました。最後に実習した幼稚園の先生がとても素晴らしい先生で、子ども達一人一人をとっても理解していて、優しいだけではなく時には厳しく子ども達に接していて、保護者の方々にとっても信頼されていました。私は、その先生のもとで実習を行って、子ども達一人一人個性があるので、その子に合った保育ができる先生になりたいと思いました。実習では、子ども達にすかれないと思いき、あまり厳しく指導することができなかったので、良い事と悪い事を子ども達に理解してもらうためには、保育者がきちんと指導していかなければいけないと思いき、そのように指導することができたら、保護者の方々からも信頼される保育者になれると思いました。子ども達一人一人を思いやり、信頼される保育者を目指していきたいと思いました。また、保育をするにあたっては、どうしても一人では解決できないことがあると思いき。そのとき、先生方と協力して保育を行っていくためにも、先生方にも信頼される保育者になりたいと思いき。

※ 私は、保育者としてこのことを最も大事にしたい。

子ども達一人一人の考え・意志を尊重して、保育者がそれを消さないように保育していきたいと  
思います。

◆ 私は保育者としてこのことだけはしたくありません。

子ども達の発想をさまたげてしまうような強制した保育や保育者の意見・考えが優先した保育は  
したくありません。

#### 〈レポート5〉

##### 『私はこんな保育者になることを目指したい』

S. F.

今まで実習でいろんな先生に出会いました。その中で自分が尊敬したいと思う先生はたくさんいま  
した。その私が尊敬したいと思った先生の共通点は“やさしい先生”でした。ただ子どもにだけやさしい  
のではなく、他の先生方に対しても、実習生に対しても誰にでもやさしい先生でした。

“やさしい”ということは、相手を思いやらないとできないと思います。相手を思いやれる、相手の立  
場になって考えられるということはとても大事だと思います。私はこのことを子ども達に教えていき  
たいし、子ども達から生まれてくるそういう気持ちを大切にしたいと思っています。でも保育者がそのこ  
とができていない限り子ども達に教えることはできないと思います。実習中、こんな先生がいました。  
「私は実習生だったこともあるし、職員になってからあなた達と同じように3日目、4日目がありまし  
た。だから、同じような悩みをもったことがあるから、相談したくなったらいつでもして下さい」と言  
われたことがありました。その言葉にはとても感動しました。

そういう相談できる人がいたからこそ、その実習もがんばれたし、こんな保育者になりたいと思いま  
した。

実習生にも誰にでもやさしい保育者を目指して行きたいと思っています。

※ 私は、保育者としてこのことを最も大事にしたい。

「相手を思いやれる気持ち」

◆ 私は保育者としてこのことだけはしたくありません。

強制的に子どもがやりたくないことをやらせたくない。ただ、やりたくないことをやりたいと思  
わせるようにしたい。